

食の安全 「基本のお話」

第65回

〈4回連続企画〉ゲノム編集技術応用食品と食の未来を考える

Part 1



Part 1

ゲノム編集技術は 新しい品種改良の技術



最近、ニュースなどで耳にするようになった「ゲノム編集食品」。「遺伝子を効率よく改変するゲノム編集技術によって生まれた食品が、早ければ年内にも国内で販売される」と報道され、不安視する声も聞かれます。どのようなものなのでしょうか。

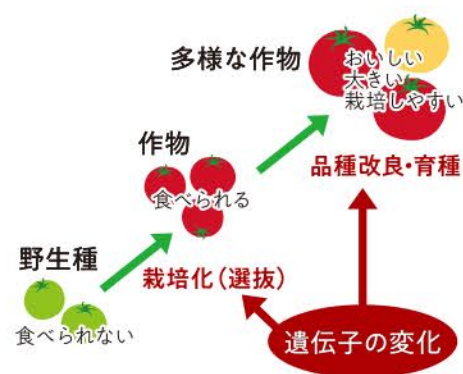
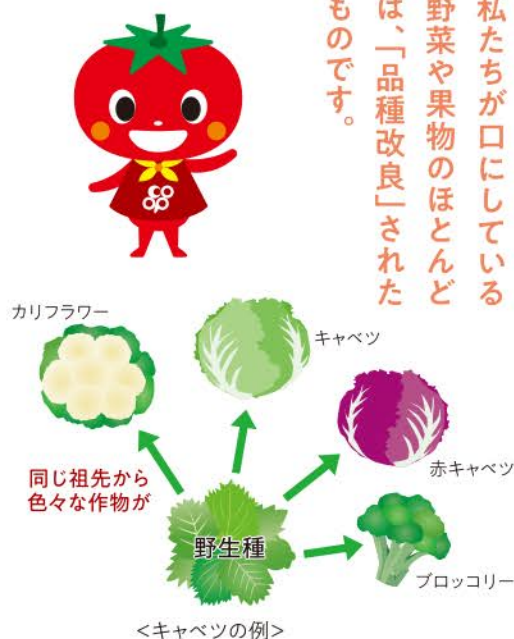
2. 栽培に適した新しい品種を作ること
品種改良・育種と言います。

野生の植物は、実が小さかったり、毒があったりと、栽培して食べるのに適さないものがほとんどです。それでも栽培を続けるうちに、性質が変化したものが生じることがあり、その中から、食用に適したものを人間が選別してきました。

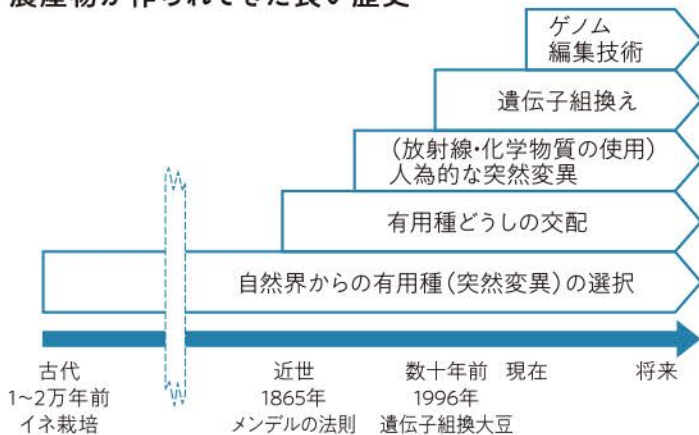
3. 品種改良は遺伝子の変化を利用しています。

生物は、遺伝子の変化によって性質が変化します。私たちは、それを利用して品種改良・育種を行い、植物の性質を自分たちにとって都合の良いもの（病気に強くてたくさん収穫でき、さらにおいしいなど）に変えてきました。

今、ゲノム技術は、新しい品種改良技術の一つとして用いられています。



農産物が作られてきた長い歴史



※このゲノム編集のシリーズは、農業食品産業技術総合研究所（農研機構）の冊子を基に作成し、ゲノム編集の未来を考える会の監修を受けています。

農研機構 <http://www.naro.affrc.go.jp/>

ゲノム編集の未来を考える会

<http://www.biosci.osakafu-u.ac.jp/foge/>